編集人：ぷくぷくの会　〒 564-0025 吹田市南高浜町 1-17-2A（総務）
TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail：so-mu@puku-2.com URL：www.puku-2.com
代表：馬垣安芳　編集長：上田かおり　1 部 200 円
年間購読料：個人会員 2000 円　広報会員（3 部）5000 円
法人会員 1 口（5 部）10000 円　賛助会員（1 部）10000 円
振替口座 00940-0-161341
「まねき猫通信」

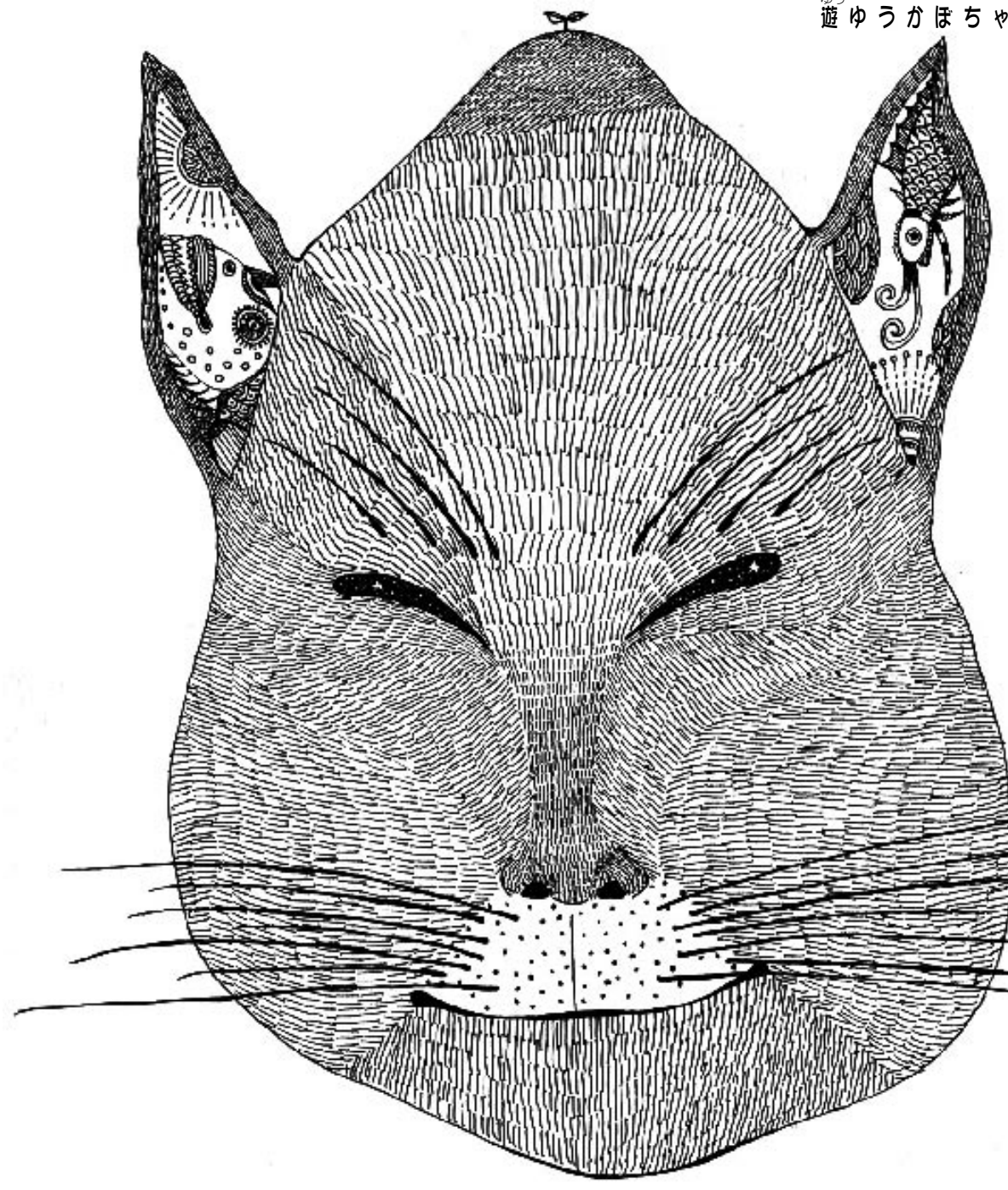
KSKP まねき猫通信

57 ひきめ

題字：
塩澤 文男
（しおざわ・ふみお）

もくじ

やっぱり地域の学校へ行きたい　2
おちおち入院もできひんなぁ－鈴木 勉　4
世論はどうつくられるか－石塚直人　5
遊ゆうかぼちゃのお家－まねきねこ探検隊　6



絵：東野 健一
（ひがしの・けんいち）

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

「女は子供を産む機械」だと発言した大臣を、首相が「十分反省しているから」と庇う。オヤジ政治屋とでも形容したくなるようなこの種の差別者は、「己は日本男児である」と自覚しているに違いない。「いざ行け／強者／日本男児」と軍歌で囃し立てて侵略戦争を美化した歴史など、オヤジ政治家ドモの脳細胞の片隅にも自覚されてはいない▲家柄・血統・権威（力）の継承を男子に限るという貴族趣味は、一向に潰え去る兆しがない。「産む性」に限定する女性観は俗情と結託している。だから、フェミニズムが私たちに突きつけた告発「なぜ男が女より偉いのか、証明してみろ！」は、この世界が男社会であり続ける限り、半永久的に有効だ▲『クライング・フリーマン』という漫画に「百八竜」という犯罪組織が登場する。皇太后格の虎母は「血の継承は組織の腐敗を招く」と、孫娘が首領になることを命がけで阻止した▲世論は大臣の妄言に対して「女性の立場を無視している」「少子化対策に逆行する」という批判のみを繰り返しているが、「女は子供を産む機械」の手本・根本はこの国の天皇制ではないか。男児世襲を賛美する俗情に如何ばかりの批判力があるのか、甚だ疑問だ。安倍も正日もブッシュも、虎母に学べ！

（パギ）

やっぱり地域の学校へ行きたい
～通信読者から相談を受けて

大阪府に住む長瀬真理さん（仮名）は、長男の進君（仮名・12 才）の中学校進学について悩み続けています。進君は代謝異常を起こす難病（食べ物などをとりいれてからだをつくるしくみの一部がうまくいかず、徐々に身体・知的機能に様々な障がいを引き起す進行性の病気）です。保育所・小学校と他の子どもたちと変わらず過ごしてきましたが、病気の進行で、三年生の途中から大きく体調が変化し、歩けなくなったり話ができなくなったりで、車いす生活になりました。

長瀬さんは、できれば友だちと一緒に地元中学へと思っているのですが、養護学級担任・校長先生からは、「地元中学と養護学校、どちらに進学しますか？」と問われ、地元中学校にどんな受け入れ体制があるのか？　養護学校の実際は？　学校から何らの情報も得られず、不安は募るばかりです。

インクルーシヴ（共生）教育の先進地域＝豊中で障がいをもつ子の親として活動してきた鈴木留美子さん、豊中の中学校教師の桂清子さん（現在は大阪市立大・大学院生として共生教育について研究中）、障がい当事者で豊中市議の入部香代子さんにお集まり頂き、インクルーシヴ教育の現状と課題について話し合って頂きました。

（司会・文責＝編集部）

障がいを理由にした差別

鈴木：進君は、三年生までは普通に学校生活を送れていたわけですよね。その後体や脳に変化（障がい）は起きてきたけれども、進君は今も進君としてひとりの子どもであることに変わりはありません。なのに進学先として養護学校を勧められ、他の生徒と分けられていくということ自体が、障がいを理由とした差別です。地元中学に行くのを前提にして、どんな準備が必要なのか？を考えるのが学校・行政の役割ではないでしょうか。

長瀬：養護学校という選択肢があるがゆえに、私の気持ちも揺れています。進学先＝地元中学であれば、それに向けて決断し、必要な準備もできるのですが、別の選択肢が示されて、そちらを選ぶ親の意見や暗にそれを勧める学校の態度などを見ると、その方がいいかもしれないと思ってしまいます。普通学校に行くとなれば、教師・学校への働きかけ、まわりの親や生徒との関係も考えなければなりません。障がいに無理解・無関心な教師に囲まれるようなことになれば、そんな環境に子どもをおいていいのか？と自問しますし、そうした教師や親とも信頼関係を創っていかねばなりません。本人も私もとてもエネルギーの要ることです。

私自身がそうしたことをこの先もずっと続けられるのか？不安になることもあります。

桂：豊中では一九七〇年代から「共に生きる教育」に向けた取り組みが始まりました。重度の障がいをもつ子どもたちが「就学免除・猶予」という形で養護学校にも行けず、義務教育を受けられないのはおかしい、ということからです。七三年から市内三校に「ひろがり学級」が作られスタートしましたが、それでも遠い子はバスに乗って通わねばなりませんでした。その後、徐々に地域の学校に通えるようになりました。今では希望する子どもたちは校区の学校に通えるようになっています。

「友だちの中にたまたま障がいをもつ子がおっただけ。だから一緒にいるのは当たり前」と卒業生たちが語るのを聞きながら、「共に生き、共に学ぶ」教育の重要性を確信するようになりました。

でも「卒業したら地獄」と言われたお母さんのことばが、今でも忘れられません。卒業してしまうと仕事も生きる場もほとんど限られているからです。

「インクルーシヴ・ライフ」（共に生きる生活）が送れる地域作りが重要だと思います。

（3面上へ続く）

熱意のこもった話し合いは４時間にわたって続けられた。

自分らしく生きるために―「とよなか福祉と人権・市民ネット」の活動を始めた鈴木留美子さん。

豊中市議・入部香代子さんは「当事者の意向こそ基本」と語る。

「当たり前に友だちと一緒にいることから始まる」を語る桂清子さん。

子どもたちからもらった勇気

（2面下より）

長瀬：学校行事である林間学校・修学旅行で、親の同行を求められました。「教師だけだと不安で自信がない」と言われ同行を決意しましたが、家庭でも二四時間付きっきりになっているわけではありません。六年間、息子は友だちや教師と共に生きてきました。その延長でよかったんです。

司会：普通の授業に付添を求められることもあるようです。

桂：学校内はもちろん、修学旅行などは学校行事なのですから、学校で対応するのが大前提です。医療的ケアが必要な場合には看護師が派遣されたり、人手が足りない場合は他の学年に応援を頼んだり、いろいろ工夫をします。学校行事に親の負担を求めるのは、基本的に間違っていると思います。

長瀬：そう考えると三年間に、いつの間にか学校でするべきことと親がすべきことが分けられてきたように思います。つまり、「手のかかる子どもなのだから、親がするのは当たり前」という無言の圧力ようなもの感じています。

三年前の発症で、これまでできていたことができなくなっていく子どもの現実を受け止めねばならないしんどさ、そして元気なまわりの子どもとついつい見比べてしまう自分自身の目もあり、悩み続けています。でもこうした葛藤を払拭してくれるのは、息子の友だちです。「進君は進君やん」とか、「（緊急の時には）僕がススム君を背負って逃げるわ」という子どもたちの言葉を聞いて、揺れる気持ちが定まり「これでよかったんだ」と勇気づけられます。

そしてこうした子どもたちの親も同じように進のことを見てくれているんだと気づいたのが、車いす生活になった頃からです。「一緒にいるのが当たり前」と思っている多くの子どもたちが私を変えてくれましたし、息子と一緒に頑張ってこられた糧でした。

鈴木：進君は友だちとの関係がよくできているし、それこそが彼にとって重要なことだと思います。いろんな先生がいますが、子どもどうしのつきあい方を見て、先生も変わるのです。豊中ではそんなケースをたくさん見ました。

「障がいがあるんだからこういうふうに生きるしかない」と諦めてしまったらおしまいです。そうではなくて「障がいがあるけどひとりの子ども」として生きていく。進君にとって一番大切な友だちとの関係を大事にすれば、障がいゆえにできないことは、まわりが何らかの配慮や援助をすれば普通に生きられます。豊中市では、親も教師もここから始まりました。

入部：この話を聞いていると二〇年前と何も変わっていないなーと思ってしまいます。豊中でも二〇年前は、障がい者福祉制度はほとんどなく一つ一つ要求し、作ってきました。徐々に制度は整ってきましたが、自立支援法成立のように、これから厳しい時代を迎えます。今はしんどいでしょうが、頑張る姿が見えてきたら、きっと仲間は増えていきます。

生活の場としての学校

長瀬：保育所は生活の場、学校は教育の場だと言われたことがあります。勉強をする場である学校に障がい児は不適当だと言われた気がしました。

桂：普通学級でみんなぶつかったり悩んだりしながら、自分の生活を築いていきます。できるようになることもたくさんあります。当たり前に友だちと一緒にいることから始まると思います。

「共に生き・共に学ぶ」―一緒にいるからこそ、豊かに学び合える。そして、互いに大切なことを学んでいくと思います。

鈴木：私の子どもはずっと原学級できましたから、確かにできるようになることはあります。でも、できる、できないで判断するのは危険です。養護学校だからできることもあると言われれば、どちらがいいかなんて証明しようがないからです。そうではなくて「友だちと同じ空気を吸わせたい」―教室の中で喧嘩が起こって、その時の言い合いを聞き、見て、雰囲気を感じることが生きることの一番重要な部分なんです。

入部：私は、養護学校も普通学校も行っていません。それでも養護学校反対を言い続けてきたのは、みんな当たり前に普通学校に行くのに、障がいというだけで、養護学校へという世間の「常識」がおかしいと思ったからです。

いろいろな問題はありますが、子ども本人がみんなと一緒に中学に行きたいという気持ちが第一です。学校は自分の人生をどう送るかについての準備ですから、親をはじめとするまわりの人は、本人の意向を第一に、どう手助けできるかを考えればいいと思います。

鈴木：誰でも得手不得手があるし、できるできないがあります。でこぼこがあるのが当たり前なのに、均一性を求めてできる子とできない子を分けると、その中でできる・できないを自然に学ぶのです。均一な集団のなかで競争しあう教育で育った子どもが大人になったら、分けて格差を作る社会が作られてしまいます。教育で「共に生きる」ことができていなかったら、共に生きる社会は絶対に作れません。だから教育は重要です。

障害者就業・生活支援センター、ジョブコーチ事業、企業内授産、グループ就労、就労移行支援事業など障がい者の就労施策が幅広く展開されつつあります。施策の内容は様々ですが「障がい者と企業をつなぐパイプ役」ということが１つのキーワードになっています。障がいをもつ人に支援は必要です。しかしパイプ役って本当に必要なのでしょうか？

「進君は進君やん」と言う進君を囲む友だち集団が、そのまま大きくなって社会人になれば‥。パイプ役は分けられているのを繋ぐのが仕事です。もし最初から分けられていなければ、共に生きる社会であるなら‥。

うーむ残念、明日も私たちはやっぱり忙しい。

すいた障害者就業・生活支援センター

センター長　井上　正治

当事者リレーエッセイ

おちおち入院もできひんなぁ

鈴木 甑

僕は今、クスリと酒でラリった頭でこの原稿を書いている。そもそもラリった勢いで引き受けてしまったともむちゃ後悔している。ほとんどヤク中状態で、もう三週間にもなる。なんでそういうハメに陥ったかというと、ロト6を買おうと出かけたカルフールの入り口にあるコンクリートのベンチとゴミ箱に、電動車イスで激突して、思いっきり足をぶつけたのだ。たぶん骨にヒビが入っている。これがめちゃくちゃ痛いので、痛み止めを飲まずにいられない。続けて飲んでいるから、効かなくなり、その上に酒を飲む。「ええ加減にしなはれ！」と嫁はんにブツブツ言われながら。「やかましい、俺は『中島らも』を目指すんじゃ！」。

入院したら介護なし!?

なかなか治らないので医者は、「何ならギブスで固めようか」とか、「足首が腫れ上がってるせいで筋肉が引っ張られるのが、これ以上ひどくなるなら切るか？」とか、物騒なことを平気な顔で言っている。

あのなぁ…、入院するようなことになったら病院に一人放り込まれてどうせいちゅうねん？介護料も出えへんし、嫁はんは二四時間ついてられるわけではない。ナースコールも押されへんし、言語障害もあるのに。

だいたい、僕みたいな重度の障がい者を入院させてくれるのか？昔は入院中にヘルパーを使うのもOKやったけど、今はできなくなった。完全看護だから病院がすべてやれということで。人手不足の上に、ヘルパーも入れられなくなったので、手のかかる患者は入院拒否されることも多い。

入院中の一時帰宅でも、介護者をつけるなら自腹でつけるしかない。「退院」と認められない限り介護料は出ない。重度障がい者はヘタに入院すると厄介なことになるわけだ。

通院にしても、今は介護者がつけられているけれど、介護保険に統合されれば、病院に着いたら、待ち時間は介護料が出ないなんてことにもなりかねない。

クルクル変わる福祉制度

医療改革で介護者がつけられなくなってずいぶん経つが、今回の自立支援法で制度が色々変わった。そしていずれ介護保険に統合されるときには、また大きく変わる。これを機に医療との連携の問題も、見直してほしいと思う。

よく健康番組なんかを見ていて、「脳卒中なんかになってもこわくないもんね～。元々から動かんしい」なんて言ってたけど、元々動かない足を怪我したために、えらいことになっている。感覚ないと思ってたけど、まだ神経通ってるやん。

しかし、俺としたことが・・・。いのに。いや、ホンマ、ホンマ。よそ見してきれいなねぇちゃんに気を取られていたわけでもない。うです。発ガン物質についてもかなりの程度まで中和することができると言われています。そう言えば、私の歯は下の歯はまだすべてそろっています。が、上の歯は虫歯になり二本も抜いてしまいました。唾液が下の歯に溜まることで解毒作用を発揮しているということでしょうか？

肥満防止の効果も

また、よく噛むことは血糖値を高め、早めに満腹感をおぼえ食事の量が少なくてすみます。噛むことを習慣化すると間食をさほど必要としなくなり、甘いものを食べる量も減り肥満防止にもつながります。甘いものを食べる量が少なくなると情緒も安定します。ストレス発散に甘いものを食べるのではなく、スポーツなど別の方法で解決したいものです。

白米より玄米や分搗き米、やわらかいパンより天然酵母でしっかり発酵した固めのパンといった具合に、噛み応えのある献立も加えてみてはいかがでしょうか？消化吸収、脳の発達、虫歯予防、肥満防止、情緒の安定など、「よく噛む」ことの効果は大です。

よく噛む習慣を

「より早く！」が評価される時代、食事時間も一様に短くなり「早食い」になってしまっているようです。しかし、ものをよく噛んで食べることの効用は、はかり知れません。

子どものときから、よく噛む習慣をつけることは味覚が鍛えられ、将来、繊細な味を楽しめる力を育てます。ものをよく噛むと消化酵素も多くなり消化器系の負担を軽くして栄養の吸収がよくなります。さらには噛むことが脳の発達に役立つことがわかってきています。噛む刺激が脳の血液の流れをよくして、大脳の「覚醒中枢」という部分を活性化し学習能力を高めるということです。また、よく噛むことでアゴや歯が丈夫になり、噛む力が全身の運動能力を高め、老化も防ぎます。

唾液の解毒作用

噛むことの重要な効用の一つは唾液の分泌を促すことです。唾液に含まれるカタラーゼという消化酵素は解毒作用があり、食品に含まれる添加物や農薬を緩和する働きもあるそうです。発ガン物質についてもかなりの程度まで中和することができると言われています。そう言えば、私の歯は下の歯はまだすべてそろっています。が、上の歯は虫歯になり二本も抜いてしまいました。唾液が下の歯に溜まることで解毒作用を発揮しているということでしょうか？

健康で自立した食生活を手にするためには

ものをよく噛んで食べることのいろんな効用

生活協同組合コープ自然派ピュア大阪　大川智恵子

新聞の作り方 ㉚

世論はどうつくられるか

石塚 直人

年が改まって一か月が過ぎ、夏の参院選に向けた政治情勢も輪郭が固まってきた。とりあえずほっとした、という点では、昨年一〇月の号でも紹介した「日本版エグゼンプション」（企業に対し、残業代支払いを免除する労働法制改悪）の国会提出断念が挙げられる。

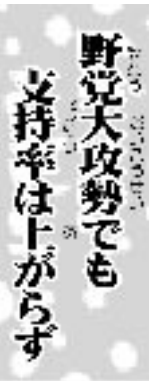
広範な労働者に自由な労働時間を認め、働きやすくする、と日本経団連が強く主張し、厚労省が最後まで今国会での成立にこだわっていたものだ。それが今年に入って、与党内から慎重論が相次ぎ、見る間に葬られた。

「世論の反発が強く、これでは参院選を戦えない」というのが理由である。どうせ選挙が終われば再び持ち出してくることは目に見えているけれど、この間の経緯は、世論がどう作られるかを示唆し、考えさせられる。

私の勤めている新聞社では、昨年末の段階でエグゼンプションの見出しに「自由な労働時間」などを使っていた。本文でもこうした説明が中心で、対象者に「残業代が支払われない」ことは最後にちょっと触れているだけ。担当して間もない若手が、厚労省の言いなりに記事を書いているのかしらん、と腹立たしい気持ちになった。

それが今年になって、「残業代ゼロ法案」などとわかりやすい見出しに変わった。変化の背景に、政権側の「説明不足」と昨年末以来の混乱があったことは疑いない。混乱は最初から誰の目にも明らかだったわけではなく、主に週刊誌によるスクープ報道のたまものと言える。

「週刊ポスト」による本間・政府税調会長の「愛人と官舎住まい」発覚と辞任に始まり、佐田行革担当相の架空事務所問題による辞任。さらに文科相、農水相、財務相らの疑惑が次々報じられた。記者クラブを通じて政権に親近感を抱きながちな新聞やテレビも、追及姿勢を強めた。



一月二七日に柳沢厚労相が講演で、女性を「子どもを産む機械」に例えた後、野党の大攻勢が始まったが、仮にこの発言が二か月前なら野党の抵抗は今より弱かっただろうし、そうでなくても今ほど報道はされなかった、と私は思う。いったん流れができると、押しとどめるのは難しい。ついにこの際、民主主義に敵対する安倍内閣そのものを押し流すまでになってほしい。

とはいえ、世論調査によると、野党の支持率もほとんど上がっていない。宮崎県知事選で「不戦敗」の民主党のぶざまさは、共倒れの自民党に劣らない。政財界人を中心に独自の影響力を持つとされる「選択」二月号（書店には

一度図書館で見て下さい）には、「参院選で与党は安泰、『新党出現』以外過半数割れはなさそう」との観測記事が載っている。

残念ながら、現状ではそうだろうな、と思わざるを得ない。

かんこさんのおまかせシネマ CINEMAKASE

みえない雲

ドイツ映画です。この映画の原作は、ドイツの作家グードルン・パウゼヴァングが青少年向けに書いたものです。ドイツで、最も文学賞の受賞作品が多い作家だそうです。この作品もドイツ児童文学賞とグスタフ・ハイネマン平和賞などを受賞しています。

この作品は八六年のチェルノブイリ原発事故直後の八七年に書かれたものです。ベストセラー小説になりました。

高校三年生のハンナは、幼い弟ウリーと口うるさい母親の三人で暮らす、ごく普通の女の子。その日も朝は、出張する母親とウリーの保育所のお迎えをめぐってちょっとした諍いはあったが、仲直りして学校へ。授業中、転校生のエルマーから呼び出され人気のない教室へ。ぎこちない会話の後に突然キス。幸せ♥　突然サイレンが…。はじめは誰もが、教師ですら、いたずらか避難訓練としか思っておらず、ちょっと知識のあるエルマーが「これは大変だ」と、大騒ぎしても授業が続けられるが…。やっと原発事故に気づき、後は逃げまどう人たちでパニック状態…。

しかし、この作品は単なる大惨事の迫力のみを描いたパニック映画ではなく、ハンナの視点を通して一緒に体験し、考えることになる、そんな映画です。物語を動かすのは若い二人のラブストーリーです。

日本でも原子力発電所の事故が新聞に発表されるだけでもいっぱいあります。是非観てください。

©：CLASART” Die Wolke”

監督：グレゴール・シュニッツラー
原作：グードルン・パウゼヴァング
（2006 年／ドイツ／ 103 分／
原題 :DIE WOLKE（雲）／配給：シネカノン）

●第七藝術劇場
（阪急「十三」西口 TEL：06-6302-2073）
3/17（土）～ 3/23（金） 12:40 ～、14:45 ～、16:50 ～
3/24（土）～ 3/30（金） 14:45 ～

●京都シネマ（TEL：075-353-4723）
近日公開

●シネカノン神戸（TEL：078-367-3868）
3/17（土）～
※上映時間・期間等については劇場にお問い合わせください。

まねまね探検隊

● 遊ゆうかぼちゃのお家

得意な面を生かして自信をつけた

今回は、無認可作業所「遊ゆうかぼちゃのお家」を訪ねました。

かぼちゃさんでは、クッキー作りと販売をしています。クッキーは2種類、チョコチップとレーズンドロップです。厨房で見学しました。クッキー生地を、シリンダーにかぶせた絞り出し袋に入れて、天板に絞り出して、オーブンで焼きます。焼く間に次の生地を絞って、道具の洗い物もして、棚になおします。

弁当配達のちらしのポスティングも行きます。弁当の食券づくりや、ちらしに絵を描く作業もします。弁当は、市の委託事業として、お昼に配達しています。ボランティアさんは車の運転、階段登って配達はメンバーさんです。

ねつけ（根付：　写真参照）も作ります。だるまさんは、手作りです。鈴がついていて、りんりん鳴ります。いろんな色があって楽しいです。お弁当配達のお客様に、お誕生日にプレゼントします。

クッキー作りは、それぞれの得意な面を活かして、すばらしい流れ作業。

小物づくりが大好きなメンバーたちが、心を込めて作りました。

作業の他に、お習字もします。お習字ノートに、先生のお手本を見て書きます。ガラスだま作りもはじめました。

ねつけは一般販売もしています。「げんきだいじょうぶ」のカードは、人前で字を書くことが苦手だったメンバーさんが、お習字で自信をつけて、書きました。毎日のお供に、いかがですか？　（は）

■地域と接する経験　みんなを変えた

と心から感謝される経験、地域の人々と日常的に接して（お弁当づくりは、地域ボランティアにお願いしています）社会に出かけていくという経験が、こんなにも力になるのかと驚く程だそうです。もちろん、外に出れば、いわれのない仕打ちを受けることもあります。作業所に帰るなり、くやし涙を流すこともあったそうです。

「みんな社会性が身についたり、本当に変わりしました。現在取り組んでいる就労実習などの就労支援も、弁当配達に取り組む以前なら、始めなかったかもしれません。」と、一緒に泣き笑いしてきた西原さんたちは語ります。

弁当配達を始めてから、皆さんは大きく変わられたそうです。お客様に「ありがとう」

北摂市長 N氏の悩み（第二七回）「三月定例会（議会中断）」の巻⑤

西川 たけお

前号までのあらすじ

フリーの記者・宗田は、N氏らに土地売却の背景に松村幹事長がいることを明らかにした。驚くN氏らに、宗田は「ギブ・アンド・テイク」だと話すのだった。

倉田は若い記者が首から提げている記者章の宗田という名前にもう一度目をやった。その名前に脳の奥深くに沈み込んだ何かがひっかかったが、具体的にそれが浮かび上がることは無かった。

N氏「倉田さん、宗田さんの言っているパチンコの事業者を調べる必要がありそうですね」

倉田「それなら天六…、いや天宮が調べてるはずです」そう言うと、倉田はどこかへ内線をかけた。

N氏「成長戦略か…」

倉田「何かおっしゃいましたか？」

N氏「いや」目を上げたN氏の前からいつの間にか宗田は姿を消していた。

前年の秋に若い党首を戴いて新しく発足した民自党内閣は、それまでの財政再建路線を大きく組み替え成長戦略路線を歩もうとしていた。というよりも、財界の意がそこにあり、代わりに政権が取り組もうとしている改憲に財界が協力するというバーター取引の結果そうなったということだ。

たまたま財界のトップが長く米国法人の社長を経験しており、新自由主義の洗礼を受け、米国の価値観を共有することにためらいのない男だったことも幸いしたのだろう。

とにかく新政権の打ち出した成長戦略という路線は、ようやく上向きつつあった大企業にもろ手を挙げて歓迎された。

同じように財政再建と緊縮財政に汲々としていた自治体もわずかな税収増を理由に、開発指向へと舵を切り始めていた。

自治体の支出は大別して、経常支出と投資的支出に分かれる。支出の全てが北摂市で消化されるわけではないが、景気という一点に着目すれば、投資的支出の方が効果が大きい。

北摂市でも、もう十年以上経常収支比率が九十七あるいは九十八％という状態が続いている。

政府の成長戦略は必ずしも政府による開発を意味したものではなく、国際競争力確保のための企業減税であり税制改正であった。しかしそれは古い民自党の族議員や地方議員を勢いづかせることにもなった。

「書き損じハガキ」や不要なハガキ、ありませんか？

書き損じハガキを集めて、郵便局で新しい切手やはがきと交換して通信の発送費や各種の案内郵送に使っています。少しでも運営費の足しになります。

年賀状や普通ハガキ、かもメールなど、官製ハガキならどんなものでも消印を押してなければＯＫです。書き間違えた１、２枚、印刷ミスで残った束、出し損ねたハガキ、何年も前の古くなったものでもＯＫです。机の中やタンスの中で眠っているハガキを提供していただけるとうれしいです。

書き損じで内容や個人情報を見られたくない場合は、交換できるものを封入した封筒の外側に、「開封無用：○○円のはがき△△枚」と内容を明記していただければ、そのまま郵便局に持ち込み処理してもらいます。

・書き損じハガキ・年賀状
・未使用のハガキ
・出していない返信ハガキ
・未使用の切手（41 円、62 円などの端数も可）
・未使用の各種プリペイドカード

（使用済みの切手やプリペイドカードは受け付けておりません。）

共に生き働く社会へ　ぷくぷくの会の想い

「ぷくぷくの会」がめざしているのは、障がいをもつ人が地域であたりまえに生き働ける社会の実現です。一九八八年より大阪府吹田市で共働作業所をはじめ、無添加クッキーやパンの製造販売、自然食品店、リサイクルのお店などにとりくんできました。また、グループホームや自立支援センター、ヘルパー派遣事業、就労支援センターなども運営し、地域で必要なサポートを提供できるよう活動しています。

「わたしたちは　しょうがいしゃである前に　人間なんだ！」という考え方を一番大事にし、障がいをもつ当事者の権利をまもり広げる運動を進めます。

「ぷくぷく」は朝鮮の古い言葉から、ゆっくりゆっくりという意味で名づけられました。一人ひとり、みんな違うからこそ人間っておもしろい。誰もが、かけがえのない人生を、あたりまえに歩んでいける社会を願っています。

「まねき猫通信」は、障がい者の地域生活に関わることなどを中心に、わかりやすい紙面をモットーに作っています。ぷくぷくの会から伝えたいことを、なるべくたくさんの方に読んでいただきたくてお届けしています。福を招き、人を招くまねき猫。「いろんな出会いをまねきたい」と思っています。ご意見、ご投稿なども大歓迎。どしどしお寄せください。

「まねき猫通信」購読会費のお願い

ぷくぷくの会の趣旨に賛同し、「まねき猫通信」を購読してもいいよ！というみなさんには、購読会費のご協力をお願いします。協力いただける範囲で、会費をお振込いただけるとたいへんありがたいです。

また読むことができないので郵送停止をという場合もお気軽にご連絡ください。（宛名ラベルのお名前・ご住所・連絡お電話番号をそえてお願いします。宛名は１ヶ月前から準備するため、連絡いただいてから、もう１度郵送してしまうことがあります）

個人会員（1 部購読）	年会費	2000 円
広報会員（3 部購読）	年会費	5000 円
法人会員（1 口 5 部購読）	年会費	1 口 10000 円
賛助会員（購読 1 部、資金応援）	年会費	10000 円

「まねき猫通信」会費・カンパの御礼

会費をいただいたみなさま

蒔野匡剛様、平尾秀夫様、坂元クリニック・坂元秀実様、上田美智代様、鈴木裕子様、北村小夜様、杉本穎昭様、砂川次郎様、長澤裕子様、ミッシーラウンジのとや・能登裕子様、スィーダー・ジョセフ様、浜口明裕様、徳永玉美様、宇佐見喜美子様、仲庭英代様、匿名様、日暮恵子様、大塩直也様、平野みどり様、前田幸雄様、防野真紀子様、田村博一様、上林京子様、韓恵順様、東北福祉大学図書館様

ご寄付・カンパをお寄せくださったみなさま

千葉博司様、福田真野様、酒井いづみ様、大森順子様、浜口明裕様、服部優様

書き損じハガキ・切手等をありがとうございました

岸田千代子様、植田典子様、匿名様、大端なつみ様、武田ゆう子様

07 年 1 月中にご入金いただいた方々です。万一、掲載漏れがありましたらご容赦下さいませ。みなさま、どうもありがとうございました。

おたよりコーナー

♪「ぷくぷくハウスの手焼きビスケット」をよつ葉で１袋注文しました。１歳になったばかりの子どもがアトピーと卵アレルギーを持っており、アレルギー反応が出ないおやつを捜しておりましたが、やっと見つけました。（市販の赤ちゃんせんべいなどはアレルギー反応が出た）

（貝塚市・Ｔさん）

※お子さまに合うもので良かったですね。ぷくぷくのビスケットの、基本の原材料は国産小麦粉、十勝産てんさい糖、圧搾ろ過製法の国産なたね油と水です。卵・乳製品・大豆製品を使っていません。ただし、同じ工場で卵・乳製品を含む製品を作っていますので、微量の混入は避けられません。アレルギーをお持ちの方は、人により、また、場合により、反応が出ることがありますので、ご注意くださいますようお願いします。

（クッキー工場・ぷくぷくワールド）

♪ほのかな甘みとあっさりとした味付けが良いと思います。牛乳、バターを使うのが主流でしょうが、こういった、なつかしい味のビスケットも捨てたものではありませんね。私の好みでは、こちら様のビスケットがいいです。

（愛知県・Ｉさん）

♪子供がひまわりクッキーをすごく気に入ってますので、また通販利用させて頂きますね。石鹸もすごく使い心地が良いですね。

（静岡県・Ｓさん）

♪ぷくぷくさんの実用石けんは、わが家の台所と浴室、洗面所にいつも置いてあります。使用感も良く、本当に実用的な石けんだと思います。

（神戸市・Ｓさん）

ウキウキ、ワクワク！

今月の商品！

春いちばん！

春になったらみんなで出かけよう！

ご注文・お問い合わせ
すいた共働作業所
ぷくぷくつうはん係
〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2
TEL06-6317-0661 FAX 06-6317-0936
※ファックスまたは郵便でご注文いただきますと、送料その他の割引サービスが適用されます。

ミルクスティック

130g　¥230

◇植物油使用。乾燥野菜（玉ねぎ・青ねぎ・赤ピーマン・人参・キャベツ）入り。

ポタージュ スープ

180g　¥170
（液体パック）

◇遺伝子組換えでない有機大豆から搾った豆乳をベースにマイルドな味。

にんじん スープ

180g　¥170
（液体パック）

◇にんじんを原料に遺伝子組換えでない有機大豆から搾った豆乳を加えたスープ。

畑のクラッカー

150g　¥210

◇国内産小麦粉１００％使用。おいしさは自然のやさしさ。おつまみにも OK。

とうもろこし スープ

180g　¥170
（液体パック）

◇スイートコーンに遺伝子組換えでない有機大豆から搾った豆乳を加え自然な風味。

カボチャ スープ

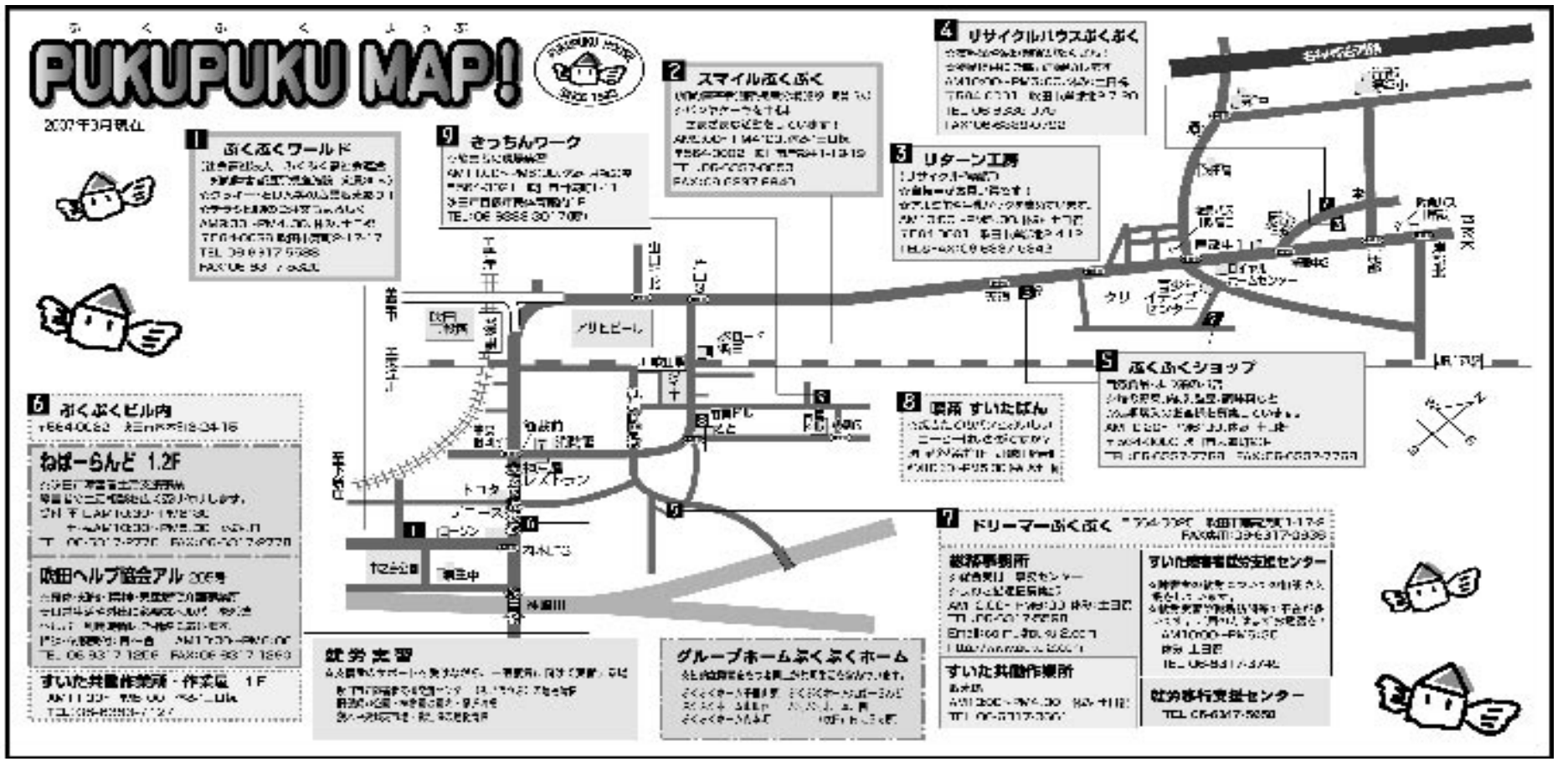
180g　¥170
（液体パック）

◇裏ごしかぼちゃに遺伝子組換えでない有機大豆から搾った豆乳を加えたコクのあるスープ。

メンバー紹介　ワールドにて

有岡（ありおか） 洋介（ようすけ）さん

◇ぷくぷくに入って、２年目です。
◇入る前は、千里作業所に２年いました。
◇今、担当しているのは、クッキー作りです。生地をこね、パイローラーをかけて、型抜きします。絞り出しの機械も扱います。
◇好きな食べ物は、肉です。しゃぶしゃぶを作る時は野菜を切ります。
◇好きなスポーツは、剣道です。毎週通ってます。ボーリングも好きです。この間、ボーリング大会でストライクをとりました。
◇好きなテレビ番組は、アニメの「結界師」です。クイズ番組も見ます。
◇休みの日は、剣道に行ったり、テレビゲームやカードゲームをしたりします。掃除機もかけます。



一九八四年八月二〇日第三種郵便物承認　毎日発行　発行人・関西障害者定期刊行物協会　大阪市城東区東中浜二・一〇・一三　緑橋グリーンハイツ一Ｆ　編集人・ぷくぷくの会　吹田市南高浜町一・一七・二Ａ（総務）頒価：一部二〇〇円